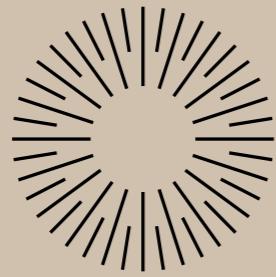




LYFA

STYLE LOOKBOOK 2024



Illuminating Traditions Since 1903

LYFA(リーファ)は1903年にコペンハーゲンで創業されたデンマークで最も古い照明メーカーの一つでした。光のパラダイムに忠実であるというデザイン理念に基づき、才能あるデザイナーとのコラボレーションにより生み出された革新的なアイデアは近代照明器具開発の基礎となり、1950年代にはオリジナル性に富んだ高品質なモダニストランプを送り出すメーカーとしてすでに国際的な評価を得ていました。2020年に新生LYFAとして復刻したコレクションでは、現代において残るべき歴史的名作を単に復刻させることのみならず、オリジナルのデザイン言語と誇り高い伝統への情熱をもって、これからさらに未来に向けて新しいLYFAのデザインを生み出していくます。

Collection

2024



MEMOIR
2023



REPOSE
2021



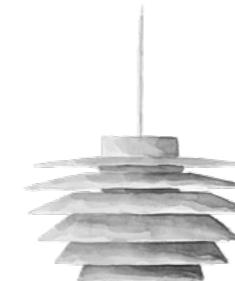
ERGO
1971



GOTHIC
1970



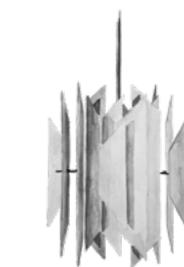
PAN
1970



VERONA
1968



CORNEA
1965



DIVAN 2
1962



MOSAIK
1959



GOVERNOR
1956



NINOTCHKA
1954



SUNDOWNER
1948



PEANUT
1946

Lightscapes

光の景観

光は環境にとって不可欠な要素です。明るみから暗闇、またその逆も、光は環境を変化させ幸福感に影響を与えます。細部を強調したり、あるいは影を使って隠したりすることで部屋の雰囲気を一変させる力をもっています。私たちは光を、直接光、間接光、拡散光という3つの異なるタイプにカテゴライズし、それぞれが用途にかなった目的を果たすようにデザインしています。住宅での照明は、快適な照度とバランスが重要なポイントになります。机上への直接光、居間の間接光や装飾光、または食卓のための拡散光とそれぞれの目的に合わせた雰囲気を作り出すことが大切です。理想的なライトスケープは、空間、雰囲気、光、形など複雑な要素の相互作用から成り立ちます。私たちのデザイン哲学は「形は機能に従う」というパラダイムに基づいています。高品質の素材にこだわり、上質な光をもたらす美しい照明器具の開発を目指します。

Direct Lighting

直接照明

光源による直接的で集束された照明です。必要な場所に光を向けて対象物の視認性を高めます。オブジェクトを直接強調することから、アートを照したりデスクで本を読んだりキッチンで料理をしたりするなど特定の目的のために使われる照明手法とされます。直接照明は影とグレアを発生しやすいのでこれを避けるためには適切な光源とポジションを選択することがとても重要です。

NINOTCHKA／MOSAIK



Indirect Lighting

間接照明

光源から放たれた光のハレーションを使った照明です。空間の雰囲気をつくりだすのに理想的です。光は拡散され柔らかく繊細であるため、グレアのない心地よい環境を生み出し、さらに陰影によって照明器具のフォルムや構造を美しく演出します。一般的に照明効率は直接照明より低いため十分なレベルの明るさを確保するには光源の選択とボリュームに注意することが必要です。

DIVAN2／SUNDOWNER／VERONA／PAN



Diffused Lighting

拡散照明

無指向性で特定のオブジェクトや表面に向けられていない柔らかく拡散した照明です。光は透明性のあるシェードやグローブを透過し、部屋全体の光として拡散し、照明器具のもの柔らかな外観を生み出します。シェードの持つ素材感やテクスチャーなどの赴きを楽しむことも照明の大切な要素です。

PEANUT／ERGO／REPOSE／MEMOIR



MEMOIR CHANDELIER III
by GamFratesi 2023



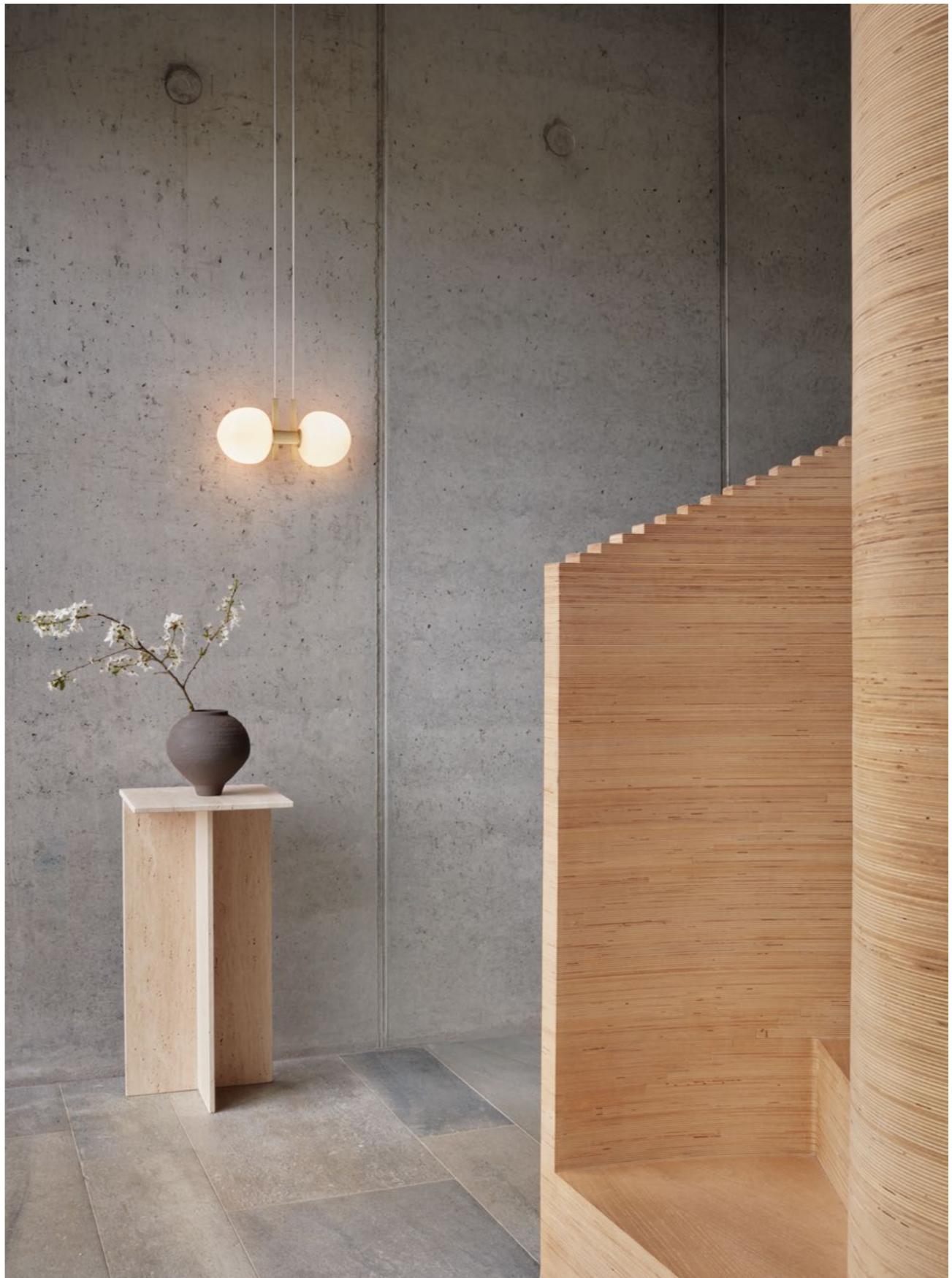
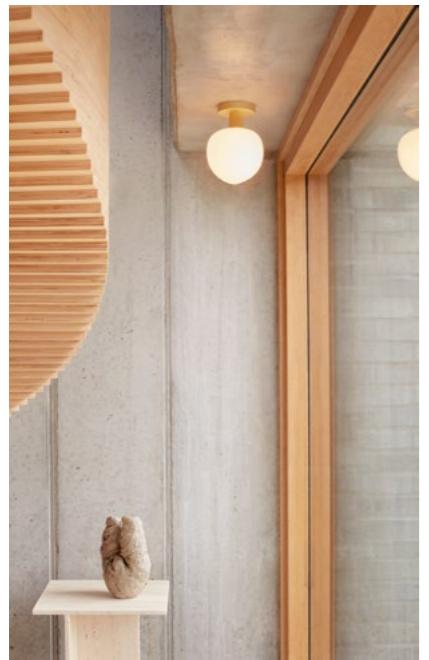
MEMOIR
by GamFratesi 2023

装飾的なセンスを持ちながら様々なコンポジションを生み出すことができるモジュールエレメントをコンセプトに開発されたモデルです。「常にシャンデリアの装飾性に魅了された（ガムフラテージ）」というように、古典的なシャンデリアの造形を現代的なテイストに落とし込むことによってシンプルでありながらも様々なシチュエーションに合致する多彩な拡張性が実現されました。歴史的なスタイルを連想させる柔らかいフォルムを持つ3層オパールのガラスグローブとは対照的に、合理性を感じさせるダブルのメタルアームとリブを持つシェードホルダーがMEMOIR（メモア）をよりモダンでグラフィックな存在として際立たせます。

MEMOIR PENDANT SIDE BY SIDE III
by GamFratesi 2023



MEMOIR CEILING
by GamFratesi 2023

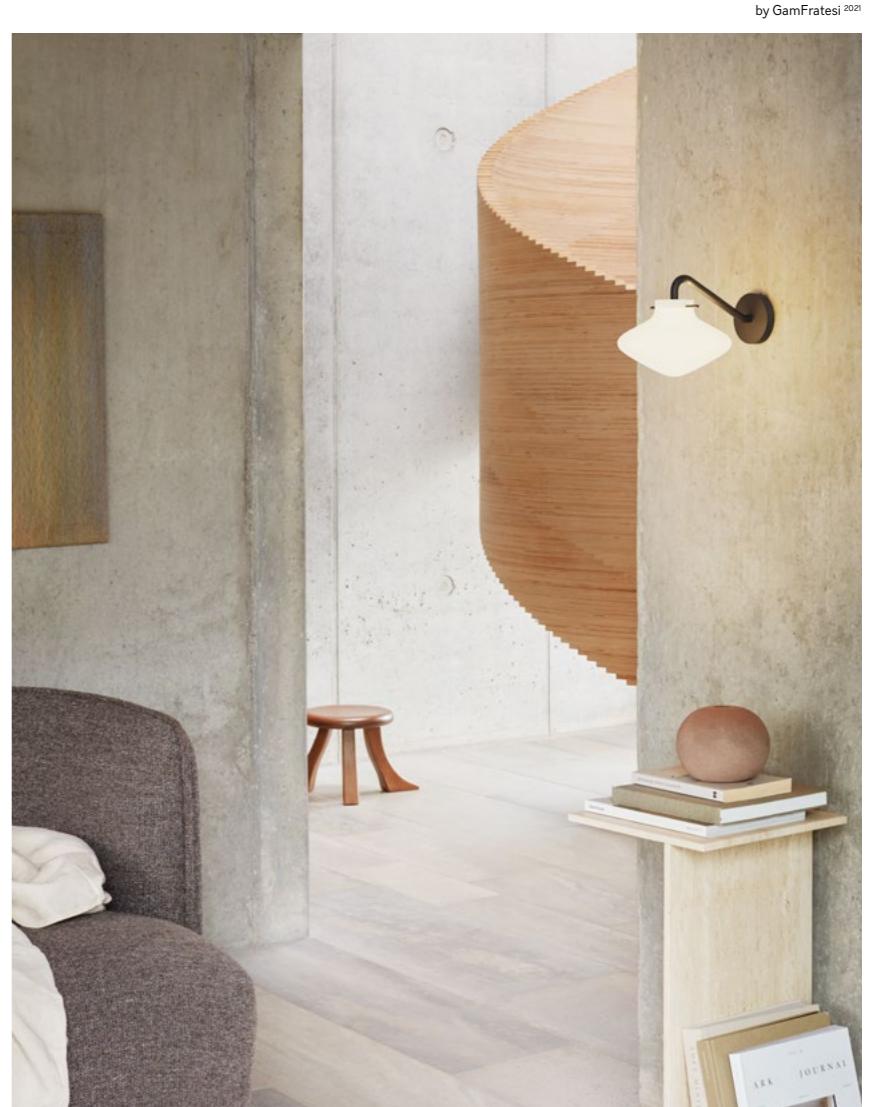




REPOSE

by GamFratesi 2021

心の静けさをテーマにデザインされたREPOSE(リポーズ)のインスピレーションは和装におけるヘアスタイルにあります。直線的でありながらも伸び縮みでもしそうなほど柔らかいフォルムをもつ3レーヤーオパールガラスのグローブには、上部のアクセントである水平のスティックによって空間に浮遊するモビールのような軽量感と瞑想的な動きが与えられています。このスティックは日本の伝統的ヘアピンである「簪(かんざし)」をモチーフにしており、ミニマルなハンガーとして機能すると同時に、トータルなデザインにおけるバランスポイントを表現しています。





REPOSE PENDANT 175
REPOSE PENDANT 400
REPOSE PENDANT 260
by GamFratesi 2021





ERGO TABLE 250
by Bent Karlby 1971



ERGO PENDANT 250
by Bent Karlby 1971

ERGO

by Bent Karlby 1971

ERGO (エルゴ)は1970年代のポップカルチャー や近未来を示唆したデザインムーブメントであるスペースエイジの影響を受けて誕生しました。下方向への機能的な光に加え、オパールと半透明のふたつのガラスが織りなす透過光が周囲に柔らかな雰囲気をもたらします。当時のシェードはプラスティック製で、カラーリングはポップなテイストでしたが、現代のLYFAコレクションでは高級感のある3層オパールガラスとシックな色調のクリアガラスの組み合わせにアップグレードされました。



GOTHIC
by Bent Karlby¹⁹⁷⁰

1970年に発表されたペント・カールビーのウォールランプ GOTHIC(ゴシック)は新生-LYFA誕生の2020年に50周年を迎えました。GOTHICというネーミングはその通り12世紀から16世紀にかけてヨーロッパで隆盛を極めた建築様式に由来しています。大きな尖塔とアーチを含む構造体が特徴であるゴシック建築のディティールがペント・カールビーの解釈によってこのコンパクトなフォルムに落とし込まれました。高級感のある真鍮サテン仕上げの本体。僅かに光が漏れる両サイドのスリットがカールビーらしい特徴を持ったデザインです。

GOTHIC I and II
by Bent Karlby¹⁹⁷⁰



PAN
by Bent Karlby¹⁹⁷⁰

点灯、消灯にかかわらず存在感を放つアイコニックなPAN(パン)は照明器具でありアートでもあります。時代の精神性を捉え、さらに超越したデザインを生み出すというペント・カールビーの特殊な才能が発揮されたコレクションです。アルマイト加工されたアルミニウムのチューブを12本も配列して形どったペンドントは内部に樹脂のディフューザーを持ち、そこから透過した光がメタルチューブ上下の開口部から溢れます。光沢あるメタルチューブの内面から上下に流れ出る光のリズムがこのスケール以上の存在感を醸し出しています。

PAN PENDANT 190
by Bent Karlby¹⁹⁷⁰

VERONA PENDANT 720, 600, 480, 400, 320, 250 and 175

by Sven Middelboe 1968



VERONA PENDANT 250

by Sven Middelboe 1968



VERONA

by Sven Middelboe 1968

インスピレーションとなったイタリア・ヴェローナの ARENA DI VERONA(アレーナ ディ ヴェローナ)は巨大な古代ローマ時代の円形闘技場で、現在もコンサートや大規模なオペラ公演の会場として使われています。デンマークでは1930年代から建築的、光学的なアプローチによりグレアコントロールされたマルチシェードの照明が数多く開発されました。それらのなかでもVERONA(ヴェローナ)のシンプルな構造とすっきりとした水平基調のラインは、独特の安定感とエレガンスを醸し出しています。特徴的な7枚の円形シェードの間からグレアフリーの柔らかな光を放ち、消灯されてもそのフォルムは印象的な装飾としての存在感を放ちます。VERONAは40年前と変わらない魅力をもって、いまなお多くのビンテージコレクターからの支持を集めます。



CORNEA WALL 220
by Henning Koppel 1965



CORNEA WALL 220
by Henning Koppel 1965

CORNEA by Henning Koppel 1965

ジョージ・ジェンセンを代表するデザイナーとして知られるヘニング・コッペルが作り出した照明はそう多くはありません。LYFAチームが彼のデザインアーカイブから見つけ出したのは名前すらない彫刻的なフォルムを持つウォールライトでした。これは1965年においてヘニング・コッペルのデザイン指向が純粋に有機的なものからより幾何学的でクリーンなスタイルへ変化しつつあることを示す興味深いアイテムでした。このランプはデザインされた当時から一度も量産されていなかったため、開発の起点となるようなビンテージは存在せず、LYFAのデザインチームによって現存する2Dの資料を紐解きながら3Dの造形と構造が設計されました。見つめているようなフォルムから着想し、これをCORNEA(コーニア)と名付けました。



DIVAN 2 PENDANT 245
by Simon P. Henningsen 1962



DIVAN 2 PENDANT 245
by Simon P. Henningsen 1962

DIVAN2(ディヴァン2)は1877年にNIMB夫妻によってコペンハーゲンのランドマークであるチボリ公園の湖畔に創業された歴史的なレストランの名称です。1962年、このレストランのリニューアルの依頼を受けたサイモン P・ヘニングセンは、公園の湖面に落ちる夕日と細波によって輝く光のハレーションをコンセプトに、エッジの効いたスラットを効果的に配置した演劇的なペンダントを作り出しました。非常に個性的で圧倒的な存在感を放つこのペンダントは光のカスケードとも称され、後にジョージ・ジェンセンのショップアイコンとなりました。その後デンマーク国内および国際的な様々な賞を受賞すると共にパリのルーブル美術館に展示されることになりました。現在このレストランの名称はなくなりましたが、同じ場所はNIMB HOTEL GROUPによって引き継がれています。

DIVAN 2
by Simon P. Henningsen 1962



MOSAIK PENDANT 250 SIDE BY SIDE II

by Bent Karlby 1959



MOSAIK PENDANT 170

by Bent Karlby 1959



MOSAIK PENDANT 250 UP/DOWN

by Bent Karlby 1959



MOSAIK FLOOR

by Bent Karlby 1959



MOSAIK PENDANT 250 SIDE BY SIDE III

by Bent Karlby 1959

MOSAIK

by Bent Karlby 1959

MOSAIK (モザイク)は幾何学的な原理に基づいたシンプルで機能的な照明システムです。フレームとなる真鍮製のシャフトとコネクターを組み合わせ、様々なニーズに対応できる豊富なバリエーション展開を想定してデザインされました。シンプルな円錐形のシェードは効率的に快適な光をもたらし、シェードトップからほのかに溢れる光が真鍮製のシャフトを照らします。3つのサイズバリエーションに加え、UP/DOWNでは遊び心を感じるような上下方向に向けられたシェードによりダイレクトライトとアンビエントライトの両方の特性を取り入れ、SIDE BY SIDE ペンダントは連結されたシェードがダイニングテーブル全体を包み込みます。



GOVERNOR TABLE 250
by Bent Karlby 1956



GOVERNOR FLOOR 405
by Bent Karlby 1956

GOVERNOR

by Bent Karlby 1956

その名の通り権威や厳格さを象徴するようなイメージをもつGOVERNOR(ガヴァナー)はオフィシャルな空間にもマッチするテーブル・フロアランプです。極限まで浅く設計された真鍮製のシェード内には2灯の光源を横向きに配置。効率よい内面の反射によって均一で心地よい拡散光をもたらし、シェードの縁に沿って施されたスリット(パンチング)が規則的な光のパターンとして浮かび上がります。ここでベント・カールビーが掲げたテーマ「ソリッド」とは、素材、形状、色といった要素がその違いを超えて共鳴し一体となることを意味します。全体を通して均一な仕上げや、真鍮無垢とウォルナットという異素材のコンビネーションで構成されたグリップは、まさにこのテーマを具現化しています。

NINOTCHKA PENDANT 425, 275, 195
by Bent Karlby 1954



NINOTCHKA PENDANT 425
by Bent Karlby 1954



NINOTCHKA
by Bent Karlby 1954

一目でそれとわかる真のデザインアイコンです。このランプのフォルムは1939年の映画「NINOTCHKA（ニノチカ）」でスウェーデン人のハリウッドスターであるグレタ・ガルボが身につけていた印象的な帽子のデザインがインスピレーションとなり、開発当時にはいくつものフォルムバリエーションを展開していました。有機的なフォルムとアシンメトリーなドレープをもつNINOTCHKAは、下方向に機能的な直接光を、シェード上部からはアンビエントライトを拡散します。シェード内面の白との外側色のコントラストはさらに立体的な印象を深め、位置によって変化するフォルムは見る人を楽しませてくれます。現代においてアート、デザイン、ファッショ、ン、ポップカルチャーは相互に刺激し合う関係性にありますが、1954年の当時すでにそれが意識された大変興味深いアイテムです。



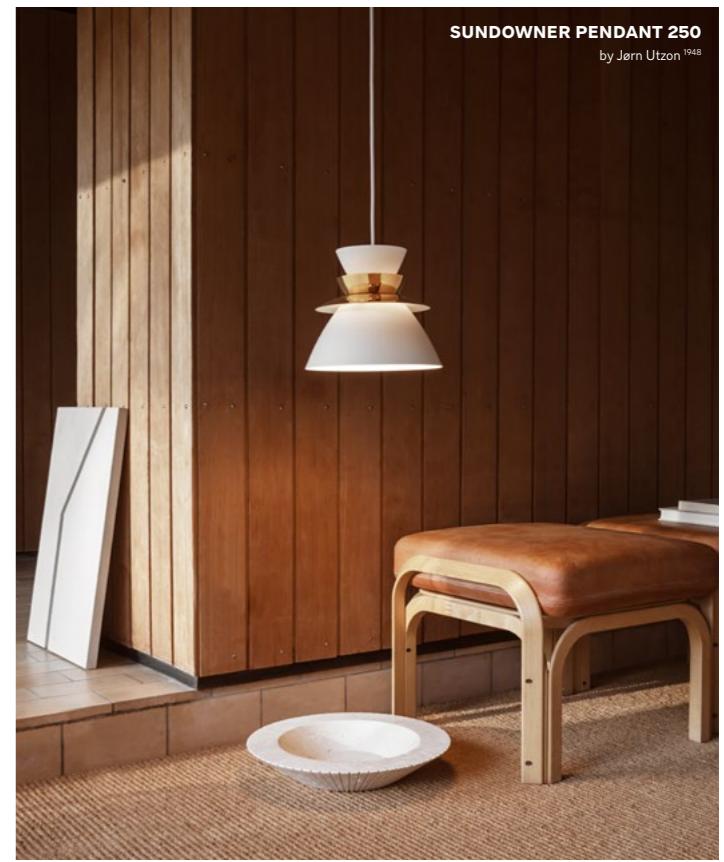
SUNDOWNER
by Jørn Utzon¹⁹⁴⁸

シドニー湾のアイコンであるオペラハウスを想起させるペンダントです。自然光の効果を際立たせる独創的な造形能力をもつ建築家として世界に名を馳せたヨーン・ウツォン。オペラハウスの国際コンペにおいて衝撃のウツォン案が採用された1955年から7年前程、建築家としてほぼ無名であった若きヨーン・ウツォンがそのケーススタディーとして取り組んだ分野が照明開発でした。今回の復刻にあたっては全てのディメンションとカーブバランスに繊細で現代的なアップデートが施され、2つの新たらしいサイズが加わると共にエディションカラーとしてスペイン・マヨルカ島にウツォン自身のサマーハウスとして建築された“CAN LIS”的外壁で使われたマヨルカストーンをオマージュした新色 Mallorcan がコレクションされました。

SUNDOWNER PENDANT 400
by Jørn Utzon¹⁹⁴⁸



SUNDOWNER PENDANT 250
by Jørn Utzon¹⁹⁴⁸



SUNDOWNER PENDANT 250
by Jørn Utzon¹⁹⁴⁸



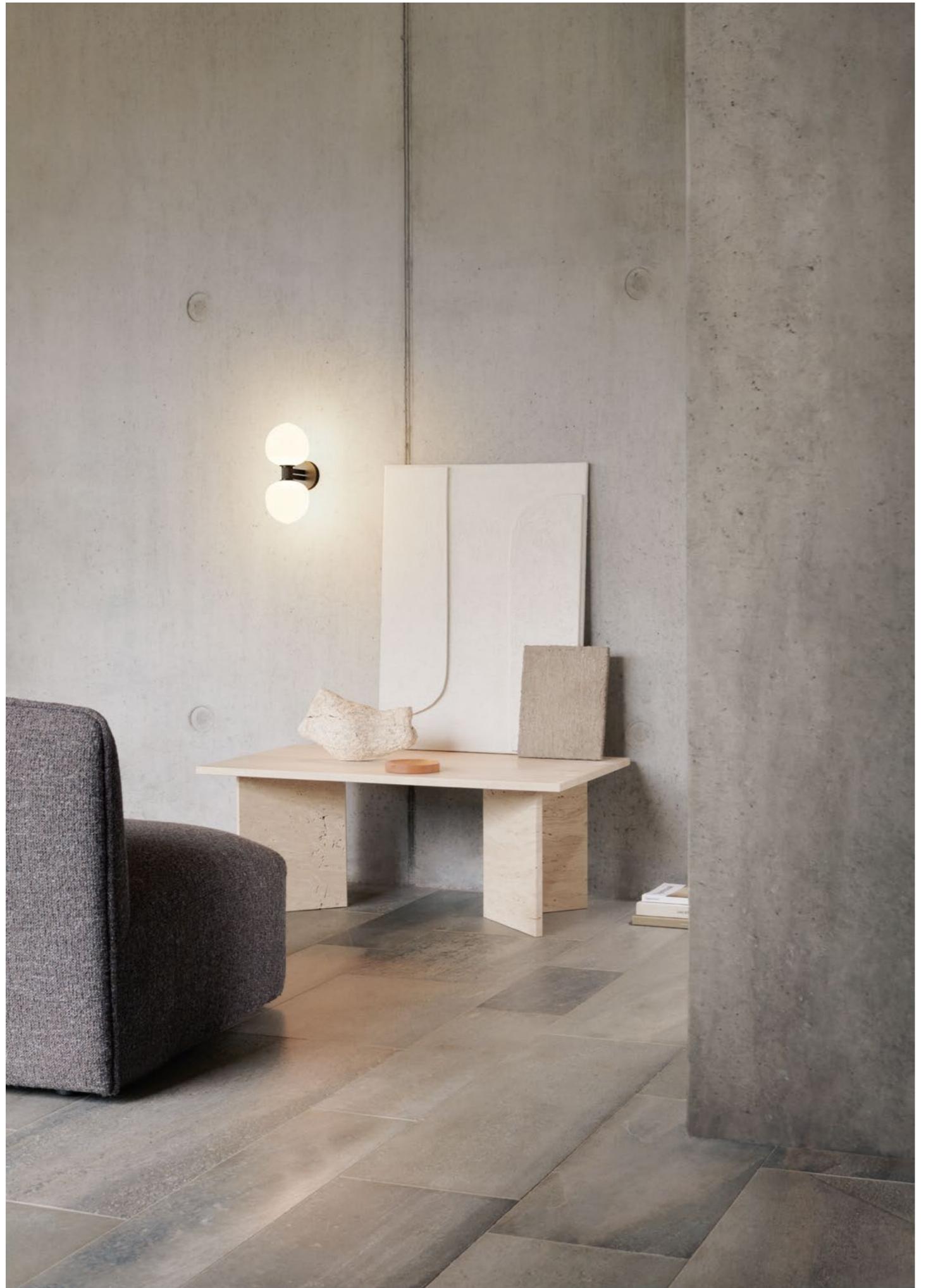
SUNDOWNER PENDANT 250
by Jørn Utzon¹⁹⁴⁸



PEANUT
by Bent Karlby 1946

PEANUT(ピーナット)は画期的な光源である蛍光灯(FL)が社会的に普及し始めた1946年に発表されました。しかし当時の多くの人々は効率優先で冷たい印象のこの光源に強い嫌悪感を抱いていました。そのような時代背景から、フォルムからも光からも住環境に柔らかさを醸し出すことをテーマに開発されました。ミッドセンチュリーの時代感を最も感じるこのクラシックなランプの魅力は、なんといっても有機的な曲線をもつ手吹きによる3層のオパールのガラスグローブです。サテン仕上げされたガラス表面がさらに落ち着きのある光を拡散し、真鍮製のボトムリングにはベント・カールビーのディティールである規則的なスリットが施され、そこに装着されているガラス製のディフューザーをは取り外しすることで、よりダイレクトなライティングに調整することができます。





Stylist Pernille Vest Photographer Irina Boersma

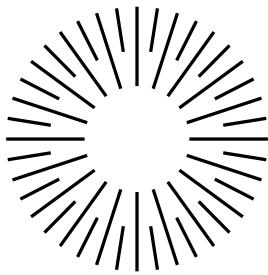
商品に関するお問い合わせ
(日本発売元)

リンインクーブ
東京オフィス
162-0064
東京都新宿区市谷仲之町2-10
合羽坂テラス3F
TEL 03 6323 8293
MAIL info@lynnbelys.com

福岡オフィス
810-0062
福岡県福岡市中央区荒戸1-1-1
柴藤ビル2F
TEL 092 725 8400
MAIL info@lynnbelys.com

スカンジナビアン・リビング
東京オフィス
107-0062
東京都港区南青山5-4-40
A-FLAG 骨董通り1F
TEL 03 6421 0590
MAIL tokyo@scandinavian.jp

神戸オフィス
650-0024
兵庫県神戸市中央区海岸通5番地
商船三井ビル5F
TEL 078 327 7732
MAIL kobe@scandinavian.jp



Illuminating Traditions Since 1903